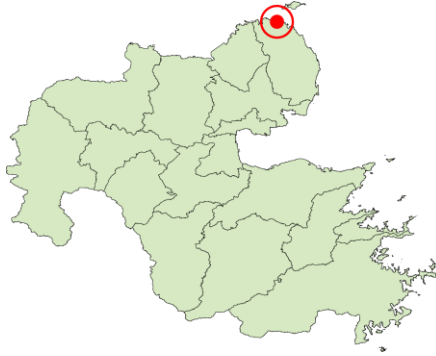




国見地区について

国見地区は、大分県北東部にある国東半島の北部に位置する。国東半島全体が円に近い火山地形であり、両子（ふたご）山を頂点とする中央山岳部から、丘陵地と谷が海岸に向かって放射状に伸びている。それゆえに、国見地区のある半島北部の海岸線は、岩盤が多く、小さな入り江と岬が連続するリアス式海岸となっている。



地区の特産品としてヒジキやマダコが有名なほか、入り江内で潮の満ち引きを利用した伝統的漁法の建干し網漁が知られている。

組織の設立および背景

国見地区は、その海岸地形から藻場に恵まれ、古くから採藻漁業や、潜水による採貝漁業が営まれてきた。しかし、近年、藻場が徐々に減少し、ムラサキウニの増加が目立つようになってきた。藻場の減少に伴い、サザエ・アワビなどの磯根資源も減少し、地区では藻場の回復が求められるようになった。

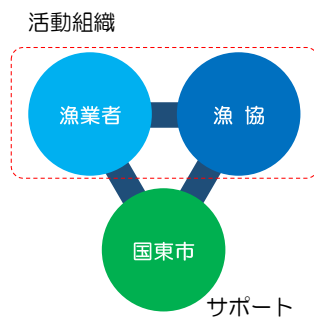
そこで、平成25年に「国見地区藻場保全活動組織」を設立し、『ウニ類の除去』や『岩盤清掃』、『海岸清掃（浮遊・堆積物の除去）』などの活動を開始した。なお、地区内の干潟の機能が低下していたため、令和3年より干潟の保全活動を開始したことを機に、名称を「国見地区藻場干潟保全活動組織」に改めた。



組織の体制と活動方針

当組織は漁業者と漁協で構成し、国東市のサポートを受けながら活動を進めている。

当組織の活動目的は、「藻場とそれに伴う磯根資源の回復」「干潟環境およびアサリ資源の回復」であり、以下の活動を展開している。



藻場の保全活動	
ウニ類の除去	スキューバ潜水により、食害生物であるムラサキウニを回収し、埋没処理する。
岩盤清掃	大潮の干潮時に、人工ブロック表面などの付着物を除去し、海藻の着生を促進する。
海岸清掃	海藻の生育を阻害する浮遊・堆積物（ゴミや流木）を除去する。
干潟の保全活動	
耕うん	クワなどで干潟を耕うんし、底質の改善を図る。
アサリ母貝の放流	アサリ母貝を放流し、アサリ資源の回復を促進する。

藻場の保全活動

(1) ウニ類の除去

構成員の大半が潜水漁業者であることを活かし、スキューバ潜水によってムラサキウニを回収している。活動は、潜水漁業の禁漁期に当たる11月初め頃に、10カ所ほどの地点を4～6日かけて実施している。なお、回収したムラサキウニは、重機で穴を掘って埋没処理している。

(2) 岩盤清掃

岩盤清掃は、主にヒジキを対象に行う。活動は、ヒジキが種（幼胚）を落とす初夏を狙って、6～7月に実施している。場所は、県が造成したヒジキ増殖場や消波施設などで、現在は4カ所で活動を進めている。

(3) 海岸清掃

採藻漁業や潜水漁業が落ち着いている6～7月頃に活動を実施している。ゴミや流木が堆積しやすい2カ所の海岸で各1回ずつ行っており、回収した堆積物は分別を行い、ごみ処理施設に搬入し処分している。



干潟の保全活動

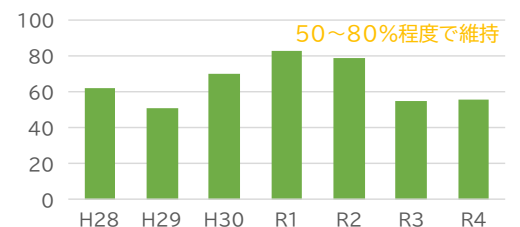
耕うんやアサリ母貝の放流は10～11月頃に1回実施している。エイなどによる食害があることから、被覆網の設置もあわせて行っており、砂の堆積対策として、杭を使って網と海底の間に隙間をあける工夫をしている。



活動の成果と今後の方針

藻場の保全活動を行ったことにより、ヒジキを中心に被度50～80%程度で藻場を維持することができた。また、ムラサキウニの除去量が減少傾向にあり、活動区域での本種の分布量が減ってきた様子が窺える。干潟の保全活動については、活動を開始して間もないため十分な成果はまだ得られていないものの、被覆網による保護がアサリの生残に有効であることが確認された。

モニタリング定点の海藻平均被度(%)



採貝・採藻漁場の再生のため、今後もこれらの保全活動は継続するが、組織の高齢化や後継者不足が問題となってきた。地元企業や学校など市民と連携した活動も模索しながら活動を進めていきたい。